



よむよむ

こんげつごう 今月号では「落語」をテーマに本を紹介します。



はじめての落語 779さ

監修：三遊亭楽松 著：櫻庭由紀子

「落語」は江戸時代から続く伝統芸能です。これだけ聞くとむずかしそうに聞こえますが、だれでも楽しめます。

ここでは「落語」の歴史や言葉の意味、そして落語家の世界も楽しく教えてください。落語の世界をのぞいてみませんか？

はつてんじん 918ら

作：川端 誠

新年になったので、初天神に行くことになったおとうさんと金坊。たくさんの屋台にしぶい顔のおとうさんと、何かを買ってもらおうと楽しそうな金坊。

さて、おとうさんと金坊は初天神を楽しむことができたのでしょうか？二人の会話も愉快的な落語です。



がむしゃら落語 913あ

作：赤羽じゅんこ 画：きむよしお



「特技発表会」で落語を披露することになってしまった雄馬。若手の落語家三福亭笑八に弟子入りするも、師匠としてはとてもたよりなくて不安がつるばかり。それでもあとにはひけません。がむしゃらに落語を練習する二カ月が始まります。

お知らせ

ふゆやす まえ ほん かえ
冬休み前にかりた本を、わすれずに返しましょう。

としょかん ??図書館クイズ??

うま
「馬」がふくまれる、ことわざや慣用句・四字熟語を集めました。

ほん ひだり い み みぎ とう
ヒント本をてがかりに左の意味を右のことわざ等とむすびつけて
みましょう。

【ヒント本】

『ことわざ辞典』813 し

『はじめて ことわざ・四字熟語辞典』813 が

『ことわざ・慣用句・故事成語を楽しむ』814 わ



おたがいに、^き気があうので、^{なか}仲よく
できること。

よく^{かんが}考えもしないで、^{ひと}人につきした
がってものごとを行うこと。

いくら^{ちゅうい}注意をされても、^き気にせず、^き聞
^いき入れないことのたとえ。

^{いちど}一度にたくさん^の飲んだり、^た食べたり
すること。

うま みみ
馬の耳にねんぶつ

うま
馬があう

ぎゅういん ば しょく
牛飲馬食

しりうま
尻馬にのる